

發行所 伯刻西爾時報社
登録所 月刊「子供」の國
社 黒石 清 作
Director Masahiro Samesima
Redação Rua Fagundes, 190
Administrative Telephone 7-4670
Offices Caixa Postal H. S. Paulo
電話部 (新聞一編社) 267900
電 報 158000
電 報 158000
廣告部
1. Pagina: (一頁) 1: 9000000
2. Coluna: (一欄) 800000
3. cm de col. (一欄) 25000

佛人神父安全地帶設置に努む

【香港廿四日同電】U.P.カン一口電によれば今朝來カン口舊國領事館でも既に萬一に

皇軍一齊城内に殺到

蔣始め國府要人ら逸早く遁出

(漢口廿五日UP) 日本軍は支那側の抵抗を受くることなく漢口全市の占領を完成せり

(東東廿五日アーバス) 日本軍先頭の機械化部隊は本日午後六時卅五分漢口市へ突入せり

(倫敦廿五日UP) エキスチエンジ・ラヴラフ上海特電によれば日本軍は支那軍の微弱な抵抗を受けたのみで漢口市へ突入した、全市占領も目途の間に在りと見られる

(東京廿五日H) 本日午後六時三十五分先鋒快速部隊の一部は漢口市内に突入せり

(上海廿五日UP) 漢口よりの公報によれば本日午後四時三十分(地方時間) 日本軍は市内の一部を占領せり

【盛岡廿四日同盟】久しく對峙中、我江南部隊は廿四日夕刻を期し、德安縣城攻戰の火蓋をきいた。

【盛岡廿四日同盟】戰艦が熱すとともに、德安縣攻戰の火蓋は廿四日午後四時一應の聲を合圖し、切て落され

戰艦陣上空に現れ、〇〇キの巨砲の雨をふれば、德安河を距て、縣の敵と對峙中津田、岩下、矢野、小原各部隊は廿四日七時、德安縣の荒荒、劉を退却より八角百賣の谷縣の決死抵抗、作棄下

に部隊全が、決死隊となつて、

結果を德安縣河を一方の敵陣地、深く一方他の部は一方の河水氾濫地帯を渡

大島部隊は、戰果

公私大建築灰燼に歸

損害約五十万ポンド

城廿四日同盟」關風
選けんとしたものゝ如く、こ
砲の十字火を

【露田前廿五日留置】廿四日午^{十二時}野寺井野縣は商家北方露地（露地の右岸より四百米^{六分}、前方を父津田野縣は附江上江野縣に接する）により火災を起し黒煙天に沖しける。

【香海廿四日同留置】地文那紙縣字號は廣田露地に就き次の如く報じ

廣東市内は去る廿二日那郡の放火により大

廿五日同盟 大本營海
所を發見、これを隠
た同地に於て廿四

東市の損害は既に約五千万ポ
ンドに達し二日にして日本軍
飛行機の一ヶ年に亘る爆撃の
／＼に破壊されたが財
害は少い模様

東廿四日同盟」去る廿四
した覆面部隊の長野、村田、
廿キ口横原城に於

て東江を渡

領

葛店鎮占領

【華容鎮廿五日同盟】廿五日午後四時半、高品部隊は武昌を

動搖を來たさしめ漢口攻略に一掃拍車を掛けてゐる

けである、しかし其氣分が

世間は三月花盛りといふ此の陽氣に拙者の服装を見たまへ
黒羽二重と云ふと剛勢だが赤
黒つゝあるから赤と云つ
に「男」の光るから赤と云つ

輝く武功を御嘉尚

東廣の
べすに

油頭

汕頭、潮州、海南島
廣州灣南奥の知識

岸の角石の三大都に臨街されて行政的には、スワ國城およびヤマトは設けられ、角石に朝陽縣に屬してゐる。

此の地は、むかしは聚落たる漁村にすぎなかつたが、一八五八年の天津條約によつて、膠州となつてからは、漸次都市の情勢を變へて、一九〇三年の潮汕鐵路開通後は、その繁榮を増し、今日において

汕頭城は、明代せう露にきつたが置かれたことが藍にまたゝ獨殘佐たが、大の事變、

の繁榮に連つたに破綻されたと懸念するが、戰後の今日の形はまた一八〇三年の形

人の居る形は、

められて
其處にあ

余が朝鮮人が二百餘ばかりをつた、露り英國の領事館へみは角石を二、三箇の地味門とて同じに南洋華僑の模範であつて、假令年賦十二万人の出の人が出し九万人のかゝるものがあると言ふ、その爲には假令南洋からの送金が一千萬円で、出韓人の持つてかへる現金金千五百萬元、計千五百万がスリ蘭にはいりそれが入る超過の決済をしてゐるとよことである。氣候は廈門より暖かいので、釣ちが好まはれてゐるので、釣ちが好い以上、内水は七十二マイル以内なので、七八ノットしか行かない、もつとも、

朝鮮の鯨魚の文なげばこれまでもして許さしたものであるが、もつとも、

知
—
と

[illegible][illegible]

10

義経殿、郷音を載たてを懐
 の巻を打脱れて女に祝
 はすことが出来ぬ、一
 を拜禮したい」
 親戚様は忠告者から出
 御心配無用」
 さうでない、今日は拙
 り計らう、まあ出な
 がないから角が違ふはシ
 紙入れを出した。源藏
 兄を見入つてゐる、是
 前へ返ふと讀むナ」
 「亂暴な事しては
 にはお断り申上」
 ハ、好アさ、金
 物だ、使はずに
 は行儀も同然、さ

切つ附るの先の赤羽と云つ
 た、聞かせば親の妹ヲ舞やう
 なもの、そを説いたで着た
 するが、
 意言と母は腹つ満つて其女
 中へ與け給ふと謝て去り、
 斯まき情なし有様になつて
 が貴殿はそれに引き寄せて
 笑つてその玉振りとゲンッ
 と一緒に面を交すと大分
 以て、時先米地帯へヒツ
 故だ、時先米地帯へヒツ
 ツヨリ會つた時、ヤレハ「誰
 な奴にと思つたか、そまとも
 は怪しと思つた」と
 「それは古瀬川故屋い」と
 「髪をつけ、迷惑さな顔を
 したゾバハハハハハ」



はるかにざりきつて、
すぢむひな、まアどの
るな、此の續まるには
まア三升もやると少
し」

阿はその名の通りびつ
はもう眞實習を了て、か
に候ふものは、なぞと
者になつて居るとは當世
厭だナ、假でも當世は潔
しなれば錢儲けになら
悲容仁義の道を思ふ者は
毀乏、マゴくすれば眞

のよいものを使ふな。第
一、世上の酒飲家
がよい、世間の飲
客を罵いだして、腹
をこたへてゐる中申す
は反駁に値する方が
多し。本や三本飲ん
だ上はよくなる。二
杯や一杯では、酒を
握へやうと云ふには
未として斷く出附する時

「有難う存じます」
と女は赤地に厚く襷を
着て、面白く
「さう酒だ酒だ、貴殿は暢快者だ、金を出つてサツサと尻に掛けて退却、我々が城の

日七十三席
 師匠は以前にも増す
 酒席に驚き辟るを尻目
 と飲むは、
 さきまの家では相變
 ぐさ、一美道ダナ

「小報でも宜いさ、コレ
 小報でも仕繼ないナ」

ア女中少いがこれは記帳
 角兵衛、圓天して、
 和進氏、それは小報で

悟道軒圓玉
 中一

（新編）
 時化

實忠臣蔵

